



大沢 正人 建設部門（土質及び基礎） moosawa@rural.co.jp

勤務先：株式会社 ルーラルエンジニア TEL：0164-26-3411

【自己紹介】

卒業後 11 年余りの地質調査会社勤務を経て、主として「農業基盤整備」に係る調査設計を行う現在の会社（建設コンサルタント）に所属して 20 年近くが経過しました。

現在、単身赴任の『不自由』な生活ですが、社宅近くの堤防をジョギングしながら、リスク管理（健康の維持）に努める日々です。

【ドレイクの方程式】

$N = R * \cdot fp \cdot ne \cdot fl \cdot fi \cdot fc \cdot L \cdots$ 現在、宇宙に存在する「知的生命体（ETI）」の数（N）

アメリカの電波天文学者（F. Drake）が提唱した式。ある試算に拠れば、銀河系で恒星が生み出される速度 $R *$ や、生命の発生確率 fl 、電波通信技術を獲得するに至る進化の確率 fc などを掛け合わせた数、即ち一度は文明を持った星の数は、文字通り「星の数」ほどもあるとのこと。異星人との遭遇のチャンスは結局、自然の力の及ばない最後のパラメーター＝文明の存続期間によって決定されるようです。

【サミット】地球の文明の存続期間については、かつて「核戦争」などが脅威として語られていましたが、今は「温暖化」を初めとした「環境問題」が最大の要因と考えられています。今年、北海道で（環境）サミットが開かれますが、産業活動を基盤とする「技術士」にとって「環境問題」への取り組みは、ますます重要な課題であると感じる年の初めです。



次号は、藤本一郎さん（農業部門）



佐藤 久泰 農業部門（農業及び蚕糸：作物育種・栽培、農業普及）

勤務先：佐藤久泰技術士事務所

定時制高校を卒業し、公務員試験に合格して農試に就職しましたが、能力不足を実感し猛勉強しました。職務以外の目標は公務員の中級、上級、改良普及員、専門技術員、技術士の資格等に順次試すことに挑戦しました。40 年の公務員のあと農業団体に 6 年間お世話になり、その間上司のご理解のもと大学院の社会人学生として、公務員時代の願望であった「アズキ品種の普及に関する研究」で学位を取得出来ました。そのあと縁あって、JICA の農業普及専門家として、ブラジルのトカンチンス州に 13 カ月間、農業技術普及システム強化のために係りました。2007 年はパレスチナの普及システム強化プロジェクトで 2 回延べ 2 カ月にわたって参画出来ました。そのほか、インドネシアで 2 カ月、オーストラリアに 1 カ月、北朝鮮に 3 回延べ 6 週間、中国に 1 週間など JICA や民間の海外支援事業に参画出来たのは、専門技術員の経験と技術士の資格が生きたと思っています。とくに JICA 専門家は、技術士資格でお手当を頂けるのは大変嬉しいことでした。

技術士の資格試験は年々難度が増していますが、国際資格として認められており、グローバル化する社会で技術者が活躍するには、技術士資格を是非取得することを薦めたいと思います。

農業部門の中でも、農業及び蚕糸、畜産、農芸化学などは、コンサル活動も余りありませんが、自ら役割を開拓していく努力も必要だと思います。農業環境が益々厳しい方向に向かっており、技術士の役割は大いにあり得ますので、多くの若い皆さんに資格試験に挑戦し、今後の活躍を期待したいものです。



次号は、佐藤導謙さん（農業部門）

エンジニアパーク

Engineer



高田 秀司 建設部門（道路）

勤務先：北海道庁 建設部まちづくり局

私は現在、街路事業の計画業務に携わっております。北海道庁に入庁した当初は、道路工事の現場監督が主たる業務であったため、いわば、「専門性の高い、内向きの」土木技術を活用していた訳ですが、現在は、「国民のだれもがわかる、外向きの」土木技術を駆使することが仕事になっています。つまり、アウトカム指標や費用対効果等を用い、より多くの人に事業の内容を理解して頂く事が仕事です。これらについて、私は、頭では理解しているつもりでしたが、実践で活用してみると、多くの困難な状況に陥りました。今後も重要度を増すと考えられる、これらの技術を使いこなすため、技術士としての継続研鑽の重要性を、改めて実感している次第です。

今般、ガソリンや軽油の価格が上昇しており、道路特定財源の見直しということが言われています。そこで、道路事業の必要性が厳しく問われていますが、これほどまでに道路が注目されるのは、今まで無かった事ではないでしょうか？ そこで私は、この機会を、多くの人々に道路事業の役割を理解して頂けるチャンスと捉えております。職場では、事業執行について「選択と集中」を含め、しっかりと説明責任を果たしてゆくため、様々な資料の作成に没頭しており、これが私の今の最大の課題となっています。

この様な格式高い場で自分の意見を述べる事ができるのも、運良く技術士試験に合格できたからです。合格に協力して頂いた多くの方々と、試験中に私を支えてくれた妻と息子に、改めて感謝します。



次号は、杉木 直さん（建設部門）



伊藤 優子 建設部門（都市および地方計画）／総合技術監理部門

勤務先：（社）北海道開発技術センター

仕事のはじまりは東京。鉄道の複々線連続立交化計画で地元調整、中心市街地活性化法施行時は NPO 法人対応、景観三法時には地域住民による景観基本計画の策定。

気がつくと、仕事より地域の方に入れ込み、NPO「まちづくりセンター」を立上げ、今に至っている。1 市民として、行政やコンサルタントの関わりに悶々とすることも。

2005 年（平成 17 年）から当センターで「シーニックバイウェイ北海道」のルートコーディネーターを務めている。これは、行政と活動団体が両輪で動かしていかなければならない施策。例えば、沿道景観づくりとしての VSP（ボランティアサポートプログラム）の持続可能な方策の検討。予算がないから、沿道住民にボランティアで花を植えろって……、花より団子の私には自信なし。自分が楽しめるか、行政も一緒に汗を流してくれるかが、ポイント。それが、大化け。行政の TOP も担当者も、「あのんだれ？」と言われようが、麦わら帽子に大きな手で通年花植えをした。夏に植えた花から種を取って次の年に咲かせ、秋に播種した花は越冬させて春花壇を飾る。そのために、自宅や寮に持ち帰り世話をした。これが結構はまったようで、「俺の花が一番だ」と競い合う。やってみないとわからない醍醐味。去年は 2 つだった VSP 活動団体が、今年は 8 箇所。たかが花。でも、今は胸を張って、行政と地域住民の win-win な関係をお知らせできる。



次号は、原山 巧さん（上下水道部門）



土井 善和 水産部門（水産土木）

勤務先：北日本港湾コンサルタント株式会社

私は、函館市に生まれ、札幌近郊の北広島市で育ち、苫小牧で学生生活を送りました。特に海に興味があった訳ではなかったのですが、縁あって現在の会社に入社し、港湾・漁港の調査・解析を担当しています。

最近の私生活では、一昨年に第一子が誕生し、共働きであることから、炊事・洗濯・家事・育児などもできるだけ手伝うようにしています。特に育児では、息子を保育園に送り届けることから、一日が始まります。妻の残業時には、子供の夕食も用意（たまにですが）しています。

平成 18 年の水産白書では、急速に進む魚離れについて、取り上げられています。確かに、私の少ない料理のレパートリーでも、肉料理が多く、子供に魚介類をあまり食べさせていないような気がします。

ここ数年は、仕事上で漁業者の方とお話しする機会を多く持てました。やはり、漁獲量・魚価の低迷や燃油など、あまり景気の良い話は聞かれません。

まず、身近なところから、子供が魚嫌いにならないように、魚料理のレパートリーも増やしていこうかと考えています。小さなことでも、将来的な水産業の発展に繋がるのかもしれない。



次号は、奥野正洋さん（水産部門）



串橋 正毅 建設部門（都市及び地方計画）

勤務先：北海道旭川土木現業所

私は、昭和 56 年に大学を卒業し道庁に採用されました。初めて勤務したのが、この旭川土木現業所でしたが、なぜか縁あって昨年 6 月、18 年ぶりに旭川土木現業所勤務となり、長かった単身赴任生活（9 年）に決別し、幸いにも自宅通勤となりました。

道庁では都市計画の勤務が長く、ここで経験した事（都市計画アセス）を形にしたという気持ちもあり受験し、平成 17 年度に合格しました。その後も「総合技術監理部門の受験も」と考えていたところだったのですが、こちらに異動になってからは行政運営上、道民に対して説明のできないミスが連続して発生してしまいました。リスク管理がなくなっていたということで大いに反省しているところです。

一連の偽装事件でお馴染みになった感のある TV などでの謝罪会見を見るにつけ、勉強になることがありました。謝罪会見とまではいかないまでも、マスコミをイメージした時の対応として、自分が Web で見つけた語呂合わせがありますので紹介します。

会見の 5 要素として「社長限界でしょ」というものです。

①しゃ：謝罪 ②ちょう：調査 ③げん：原因 ④かい：改善策 ⑤しょ：処分

「言うは易く行うは難し」を今回痛感させられました。何よりも、ミスを犯さないよう、技術士を自覚し今後も業務を遂行していきたいと思っています。



次号は、石塚 弘さん（建設部門）

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



佐伯 礼子 建設部門（河川、砂防及び海岸・海洋）／総合技術監理部門

勤務先：株式会社 北開水工コンサルタント

数年前の専門誌に建設分野内外の立場から意見が載っており、両者の溝や温度差の大きさに驚いたのを覚えております。正直なところ外部の有識者の意見は、一般市民の考えを代弁しているとも言えます。苦労や苦心を重ねて仕事に励んでいる方々の姿と、冷めた目で見つめる市民が重なって見えました。環境に優しいとか市民のためにと言葉に出すのは簡単ですが、人間相互の理解が最も難しいのかも知れません。

数年前から小学校で、地元の河川に関わる総合学習のお手伝いをしています。対象は小学校4・5年生ですが、よく「ありがとう」という言葉をかけられます。自然に子供達の口から出てくるのが新鮮であり、大事なものを呼び起こされた気持ちでした。バスタオルを広げて子供達の着替えの場を取っていると、「大丈夫ですか」と気遣ってもらい思わず心がウルルとなりました。地方に居ますとエゾリスが間近で木を上り下りする姿や、アカゲラが木をつつく音に自然と笑顔になり心が癒されます。

通勤途上で時々動物達に出会った木が、駐車場確保のため伐採された時、もっと最小限にできなかったのかと残念でした。ともすれば日々の生活の中で大切なものが見えにくくなりがちですが、小さな喜びや感謝など原点を忘れずにいたいと思います。



次号は、佐波勇人さん（化学部門）



橘 邦彦 建設部門（都市及び地方計画）／総合技術監理部門

勤務先：株式会社 パル設計事務所

この地北見で生まれ、1995年の阪神淡路大震災で大きな被害を受けた兵庫県芦屋市で少年期を過ごし、大学進学と共に再び北見に舞い戻り三十数年。大学時代に知り合った家内と卒業翌年に結婚。一姫二太郎に恵まれ、今は七歳と三歳の孫がいる。息子は昨年大学を卒業し、今年何とか北海道警察採用試験に合格。今、警察学校で訓練を受けている真最中。そのようなことで、やっと子育ても卒業かと安堵している今日この頃。一方、私も今年55歳を迎える。いつまでも現役で図面を書いたり電卓たたいたりしできないし、そろそろ老後の心配もしなければと思う。経済的な部分はさておいて、もともと生き甲斐を感じられる趣味を持たない私である。かといって、今更趣味を持つことも思いつかない。そこで苦労して取得した技術士の資格。昨今の業務では、ワークショップなどの合意形成を図る分野を得意としている。これを活かし、何かと問題・課題の多いこの北見のまちづくりに貢献できないか。そのようなことから最近、市民活動に参加したり研究会活動や技術者養成の講座に協力したりとか、とりあえずやれるところから行動を起こしている。またお世話になった母校の北見工業大学で機会をいただき、恩返しのつもりで学生に講義も行っている。良しにつけ悪しきにつけ、自分の経験・知識を地域に発し、また後輩たちに伝え、これからの地域社会を担う人材育成に微力ながら協力していくことが、私のこれからの役割かと思っているところである。



次号は、野口 晃さん（応用理学部門）